

着物 リサイクル
毎月25日号掲載
春夏秋冬

第208回
チームj-culture 2020

このコラムの第200回で、東京オリンピック・パラリンピックに向けた「チーム着物2020」が4月3日に経済産業省が主催する和装振興協議会のテーマを使い、「一般財団法人世界文化きもの学会」内に設立され、私がチームリーダーに就任したことを詳細に述べた。

実はこの「チーム着物2020」の設立がきっかけで、7月に農林水産省・生産局からお呼びがかかった。ここで、生産局が管轄する畳表・お茶っ葉・花材・繭に関わる4つの業界が一堂に会する機会を得た。

繭は養蚕農家を作る農作物で、これを乾燥させ乾繭にして、乾繭から生糸を生産し、この生糸から絹織物が織られ着物になる。農林水産省の生産局と最も関わりのある「一般財

団法人大日本蚕糸会」が、「チーム着物2020」のメンバーであったことから、リーダーをしている私も着物業界の代表として、畳業界・お茶業界・お花業界の代表の方々と業界の垣根を越えてチームを組むことになった。

畳業界からは「畳でおもてなしプロジェクト」、お茶業界からは「日本茶業中央会」、お花業界からは「日本いけ花芸術協会」、そして着物業界からは「チーム着物2020」で新たに、「チームj-culture 2020」を組織した。

日本文化の
おもてなしを提案

「j-culture」は、当然ながら日本文化を意味している。このチームの設立目的は、日本文化に関わる4つの業界が一体となって、来たる東京オリンピック・パラリンピックに於いてどの様な「お役立ち」ができるか?そして、どの様な「おもてなし」ができるか?という具体的な施策を、東京都と

お茶・お花・畳・着物業界でチーム結成

日本文化で「おもてなし」パフォーマンス

オリンピック組織委員会、JOC、JPCに提案する事である。そしてこの事により、東京オリンピック・パラリンピックの開催目的の一つである「日本文化の魅力発信」を実現することである。

着物イベントで
初セッション

その為のファーストセッションを、10月6日に行われた着物文化イベント「きものサロン in 日本橋」で開催させて頂いた。コレド室町内にあるホール会場のランウェイに、四季の柄を江戸小紋で染めた縁をバイアスにデザインした江戸畳を敷き詰め、その上で約一時間のショーを展開した。

先ずお花は、舞台上で草月流の袴姿の男性が生け花のパフォーマンスを披露した。続いてお茶は、大日本茶道学会の先生が麗澤棚を舞台に乗せて、立礼式のお点前を車椅子のゲストに差し上げた。またそのゲストに、車椅子に乗ったまま着られる振袖をステージ上でお着せするパフォーマンスも紹介した。更にランウェイでの振袖披露は、福島県の養蚕農家で作った繭から引いた生糸で織り上げた



「チームj-culture 2020」のイベントチラシ

駒組の生地に、桂由美さんにデザインして頂いた平和の象徴・折鶴の柄を京友禅で染め上げた振袖である。

パラスリットに
ワンタッチ着物を

全てのパフォーマンスには、各々の業界の思いが込められている。畳業界の「畳でおもてなしプロジェクト」のメンバーは、東京オリンピック村ヴィレッジに1000枚の畳を寄付して、世界中のアスリートに畳を体験してもらいたいと考えている。またお花業界は、生け花でアスリートをおもてなししたいと計画している。お茶業界は、アスリートの方々に正座をしなくてもお点前を体験出来る立礼式でおもてなしを考えている。

そして我々着物業界は、世界中から来られるアスリートの方々に、畳の上で着物体験をして頂きたいと考えている。またパラリン

ピックに於いても、車椅子のアスリートにファスナー仕様のワンタッチで着られる着物を開発し、着物を楽しんでもらいたいと思っている。

これらは、日本文化での「おもてなし」の具体的な提案の一部である。

ほかに、駒組の折鶴の柄の振袖は、オリンピックのメダル授与のセレモニー時に、アシスタントの女性に着てもらいたいと考えている。またメダルのリボンには、江戸組紐の技法を使って藍染で東京オリンピック・パラリンピックのシンボルマークの市松文様を表現したいと考えている。これらは、着物文化で

「お役立ち」出来る為の具体的な提案の一部である。

お陰様でこのファーストセッションは、各方面から非常に高い評価を頂き、NHKの取材を受け、首都圏ネットワークで放映された。更に、東京オリンピック組織委員会の重鎮にもご臨席を賜り、我々のチームの活動に大きなエールを頂戴した。

縁あってこの「チームj-culture 2020」に於いても、私がチームリーダーをさせて頂いている。そして、このイベントをキッカケに、東京オリンピック・パラリンピックのオフィシャルスポンサーである「みずほフィナンシャルグループ」が、全面的にバックアップを申し出てくれた。

結果的にこの様な座組でチームが生まれ、日本文化の魅力発信を目指して行きたいと考えているが、いかがだろうか。



東京山喜
(店名・たんす屋)

中村 健一 社長

1954年9月京都市生まれ。77年カリフォルニア州立大学ロングビーチ校留学。79年慶応義塾大学卒業。同年東京山喜入社。87年取締役京都支店長、91年常務、93年社長に就任、今に至る。